

海外自治体幹部交流協力セミナー2019（シドニー事務所管内） 事業概要

地方交流事業テーマ：基幹産業（第一次産業等）を生かしたまちづくり ～地場産業振興の取り組み～

海外参加者数： 5名

Geoff Glass（ジェフ グラス）
南パース市 CEO
Steven John May（スティーブン ジョン メイ）
ワイロア市 CEO
Shaun Cumming（ショーン カミング）
ベイサイド市 経済開発専門家
Ponie De Wet（ポニー デ ヴェット）
カウラ市 ビジネス・経済発展担当
Carol Mills（キャロル ミルズ）
シドニー工科大学公共政策研究所兼地方自治体センター 所長

日程：

月日	内容
2/3(月)	○来日、オリエンテーション
2/4(火)	【東京セミナー】 ○講義：日本の地方自治（明治大学 木村俊介教授）、 宮崎県の物産 PR 等の取り組み ○視察：宮崎県アンテナショップ KONNE、東京駅・皇居（散策） ○クレア主催歓迎レセプション
2/5(水)	【東京セミナー】 ○講義：東京都の環境政策（キャップ&トレード制度） ○視察：東京都庁展望台、青山スクエア、赤坂迎賓館（和風別館）
2/6(木)	【移動/都城市における地方交流事業】 ○都城市概要説明、都城市長表敬訪問、都城市主催歓迎レセプション
2/7(金)	【都城市における地方交流事業】 ○講義：産業振興・インバウンド（PR 事業としてのふるさと納税制度含む） ○視察：JA 都城 直売所 ATOM、栗山ノーサン、志和地最終処分場埋立地、 都城市クリーンセンター ○ホストファミリーとの対面、ホームステイ
2/8(土)～ 2/9(日)	【都城市における地方交流事業】 ○ホームステイ
2/10(月)	【都城市における地方交流事業】 ○視察：霧島酒造、霧島ファクトリーガーデン、神柱宮 ○文化体験等：太鼓体験、獅子舞鑑賞、餅つき（神柱宮の祭り小舎にて） ○都城市職員との意見交換会 ○クレア主催帰国前夕食会
2/11(火)	【東京へ移動】
2/12(水)	○帰国

【2月3日（月）】

参加者来日

【2月4日（火）】

（1）講義：日本の地方自治

クレア本部会議室にて、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 木村俊介教授による講義を受講。質疑応答では、日本の市町村合併におけるメリットやデメリット、税金制度、人口減少及び選挙における投票率低下の要因等について質問が相次いだ。



（木村先生に質問する参加者）

（2）講義：宮崎県の物産PR等の取り組み

都城市におけるセミナーに向け、宮崎県東京事務所及び宮崎県物産貿易振興センターの職員により、宮崎県の東京における物産PR 取り組み等について講義していただいた。

まず、宮崎県の概要説明のほか、ピーマンや金柑等といった県の特産品や、首都圏のレストラン等で実施した食品フェアについて紹介をはじめ、新宿にある宮崎県アンテナショップ KONNE の商品や同ビル2階にあるレストランの宮崎県産食材で作られた食事等について説明していただいた。

質疑応答では参加者から、アンテナショップを設置することの効果や宮崎県へのインバウンドについて質問があった。



（講義後の質疑応答の様子）

（3）視察：宮崎県アンテナショップ KONNE

講義後、宮崎県アンテナショップ KONNE を視察。

「KONNE」は宮崎県の方言で「来てね」という意味で、宮崎県産の商品が多く置いてあり、非常に入りやすく、職員も笑顔で南国情緒を感じられる店である。

視察した2月の上旬は金柑の季節で、店内に多く陳列されていた。また、お菓子や焼酎、肉等が販売されており、宮崎県内の商品を手にとりながら興味津々に商品について質問していた。



（KONNE の前での集合写真）

(4) 視察：東京駅・皇居

1日目の講義及び宮崎県に関する基礎知識を得てから、東京駅へ移動。

東京駅では、駅舎の建設に関する歴史や駅舎の中を見ながら構築の特徴を見学。駅の外で2020年の東京オリンピック・パラリンピックのカウントダウンクロック及び駅舎の前で集合写真を撮影、そのまま皇居へ移動した。皇居において、二重橋等を視察後、桜田門を出て日が沈むのとともに、1日目の視察を終えた。



(東京駅で)

(5) クレア主催歓迎レセプション

グラウンドアーク半蔵門にて開催。参加者5名のほか、クリアから常務理事をはじめ7名が参加。

【2月5日(水)】

(1) 講義：東京都の環境政策（キャップ&トレード制度）

東京都のオフィスビルや工場を対象とした世界初の都市型キャップ&トレード制度について講義していただいた。同制度は各事業所に二酸化炭素の排出量に上限を設置し、当該上限以下を排出した事業所が残高排出量を他事業所へ販売できる制度で、参加する事業所へのメリットや2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたプログラム等を説明していただいた。

講義後、都庁の展望台へ上がり、東京を一望した。天気が非常によかったので、冠雪の富士山が綺麗に見えた。



(講義の様子)

(2) 視察：青山スクエア

日本全国からの伝統的工芸品について学ぶため、青山スクエアを訪問。

店内には、織物や漆器、扇子から仏壇に至るまで3,500品の伝統工芸品が置いてある。職員に日本の伝統工芸品登録手続きや制度、展示方法やイベントなどについて説明していただいた。その後、参加者は自由に店内を見学し、都城市の大弓から特別展示のひな人形まで見学した。



(伝統的工芸品を見学する参加者)

(3) 視察：赤坂迎賓館（和風別館）

東京での最後の視察として一般公開されている赤坂迎賓館の和風別館を見学した。

職員が建物の特徴や歴史を英語で説明しながら、主庭及び噴水を通り、「游心亭」という和風別館へ向かった。別館の前では、咲き始めた梅の花に迎えられた。別館の外で100年以上栽培されてきた盆栽や池では色鮮やかな錦鯉が泳ぐ中、世界各国からの賓客をお迎えする主和室や歓談及び食事ができる即席料理室、茶室等を視察した。



(和風別館の前で迎賓館職員との集合写真)

【2月6日（木）】

(1) 都城市による概要説明

「日本のひなた宮崎県」の南部に位置し、「日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統」をキャッチコピーに掲げる都城市へ移動。

到着後、さっそく市役所へ向かい総合政策部長による市の概要説明をいただいた。まず、市のPR動画を見てから、人口や面積等といった基本的な数値について説明していただいた。また、ふるさと納税制度の活用による「日本一の肉と焼酎」のイメージ戦略について説明を受けた他、農業やオーストラリアとの交流事業、1999年に締結された2つの姉妹都市関係等について発表していただいた。



(総合政策部長による市概要説明の様子)

(2) 都城市長表敬訪問

概要説明に引き続き、池田 宜永都城市長への表敬訪問を実施した。市長から参加者へ、日本及び都城市に対する印象について質問があった。参加者からは、「街中がきれいに整理整頓されており、日本人は礼儀正しい。」、「都城市の方々も非常に暖かく、この6日間の行程、ホームステイを楽しみにしている」などと回答があった。



(市長を囲んで)

(3) 都城市主催歓迎レセプション

都城市の副市長をはじめ、幹部職員及び国際交流を担当している職員、オーストラリア出身の国際交流員（CIR）に出席していただき、会場に着いたら参加者及び市職員が記念品を交換した。夕食の途中で、各参加者はユーモアを交えながら自己紹介や自分の自治体の紹介を行った。

宮崎県産の材料がたっぷり使われている料理ばかりでなく、都城市の本格芋焼酎を飲み比べできるように3種類を準備していただき、参加者にそれぞれの違いや焼酎の特徴を解説してくださった。



(記念品を交換する参加者及び市職員)

【2月7日（金）】

(1) 講義：産業振興・インバウンド（PR 事業としてのふるさと納税制度含む）

視察を始める前に、市役所において、ふるさと納税制度及びインバウンド事業について受講した。

ふるさと納税制度の概要のほか、都城市が当該制度を通じてどのようにPRを行っているかを説明していただいた。都城市は過去2年連続ふるさと納税で全国1位になっているが、ふるさと納税をどのように活用しているか、統計データを用いて説明いただいた。参加者からはふるさと納税の返礼品を提供している会社のメリットとデメリットなどについて質問があった。

また、インバウンド事業に関して、統計データや、「ミートツーリズム」や多言語サイネージ等の事業について紹介していただいた。質疑応答で、参加者からは、観光やインバウンドでふるさと納税を活用する可能性や民泊等について質問が相次いだ。



(質疑応答で質問をする参加者)

(2) 視察：JA 都城 直売所 ATOM

昼食会場へ移動し、地元の農産物をふんだんに利用した郷土料理を味わった後、直売所 ATOM を見学した。

都城市より店内で販売されている牛肉に関する説明を受けた後、参加者は、地元の農家が生産した野菜や果物をはじめ、焼酎、魚などを自由に見て回った。



(都城市による牛肉の説明)

(3) 視察：栗山ノーサン

栗山ノーサンは豚足取り扱いの先駆者であり、「農家とともに生きる栗山ノーサン」をスローガンに掲げる企業である。現在、豚及び牛肉を取り扱っている会社として活躍し、ふるさと納税の返礼品を出品している。

到着後、会議室へ案内され取締役による挨拶及び会社の概要説明をしていただいた。説明の中で、栗山ノーサンが豚を無駄なく利用できるように加工等を行っており、豚の様々な部位の使い方を紹介していただいた。

説明を受けてから、参加者が帽子や防御用の服を着用し、加工施設を見学してから、スパイスで味付けされた豚肉のジャーキーを試食した後、商品の海外輸出やふるさと納税で行っているプログラム等について積極的に質問していた。



(防御用の服で加工施設へ向かう参加者)

(4) 志和地最終処分場埋立地

オーストラリア及びニュージーランドにおいて課題となっているゴミ処理に関連する、市の施設を視察した。

志和地最終処分場は都城市にある最終処分場の1つで、焼却後に残る灰を捨てる場所だった。1999年に最終処分場を埋め立てた後、住民のために子どもが遊べる公園や誰でもグランドゴルフが楽しめるふれあい広場として利用されている。参加者が広場の外周を歩きながら、職員が施設の運営について説明を行った。



(志和地最終処分場埋立地における施設説明)

(5) 都城市クリーンセンター

都城市クリーンセンターにて市のゴミ処理の取り組みについて受講し見学した。

2015年にオープンし、燃えるゴミやPETボトル、粗大ゴミ等を取り扱う施設である。施設の運営やゴミ処理過程に関する動画及び都城市による説明を受けた後、ゴミピットやゴミの焼却から作られているエネルギーを測る装置、二酸化炭素排出等に関する施設周辺の大気を測定し報告する機器を解説していただいた。質疑応答では、運営費や運営構造、ゴミ処理に係る手数料負担に関して質問が相次いだ。



(ゴミピットの見学の様子)

(6) ホームステイ

宿泊先のロビーへ戻り、ホストファミリーと対面。

参加者は、ホストファミリーの自宅で週末の2日間を過ごし、日本の家庭、文化を体験するとともに、近隣の観光地等を訪問して、日本についての理解をさらに深めることができた。

【2月8日(土) — 2月9日(日)】

ホームステイ

【2月10日(月)】

(1) 視察：霧島酒造、霧島ファクトリーガーデン

霧島酒造を訪問し、会社の概要動画を見た後、焼酎の製造過程の説明を受けながら、施設を案内していただいた。ツアーでは霧島酒造の主要な焼酎の香りの違いを比較する部屋や、原料となる黄金千貫の試食のほか、製造過程で産み出される廃棄物を利用して、エネルギーに変える霧島エコファクトリーの環境にやさしい取り組みや、工場内にある霧島ファクトリーガーデンも見学した。



(焼酎の香りの違いを確認する参加者)

(2) 視察（文化体験）：神柱宮（祭り小舎）

都城市での最後の視察として神柱公園内に2019年7月に完成したばかりの祭り小舎を訪問し、都城市で7月に行われる「おかげ祭り」について市民団体から説明いただいた。

祭り小舎自体がおかげ祭りの活動拠点であり、祭りで担われる御神輿も館内に展示されている。祭りに関する説明後、参加者が法被及び帯を着用しさっそく太鼓体験の指導を受けた。実際に祭りの際に演奏されるリズムを自分たちでやってみてから、市民団体の方々による獅子舞を鑑賞した。最後に参加者が順番に杵を持ち、餅つきを体験した後、きなこもちを楽しむ充実した文化体験となった。



(参加者の餅つき体験の様子)

(3) 意見交換会

セミナーの締めくくりとして意見交換会を実施した。

まず、都城市での6日間の滞在や視察について各参加者にコメント及び感想を述べていただいた。ホストファミリーとの思い出や、環境にやさしいゴミ処理や企業の運営に感銘を受けたと感想があった。

また、日本、都城市の取り組みと比較すると、ニュージーランドで提案された「ふるさと納税」のシステムの短所や、オーストラリアで抱えている地方の過疎化、自治体における環境政策等について言及し、3カ国の政策や状況を比較することが出来た。

また、参加者が自国及び自治体等の取り組みを紹介しながら、都城市の企業への支援や地場産業を支える「地産地消」について、意見交換を実施した。最後に、人口減少を軽減するための技術活用や子育て支援の取り組み、ふるさと納税の使い道に関して活発な議論が行われた。



(都城市での滞在を述べる参加者)

(4) クレア主催帰国前夕食会

クリア主催帰国前夕食会を常盤壮にて開催した。

参加者は都城市での6日間を振り返りながら、新鮮な刺身や肉料理、都城市で作られた焼酎やワイン等を味わいながら、活発な意見交換が行われた。

「日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統」を掲げている都城市での最後の夜は笑顔に溢れ、今回のセミナーを通じて、交流が継続されることが期待される。



(都城市との集合写真)

【2月11日（火）】

東京へ移動

【2月12日（水）】

参加者帰国